

< 報告書 >

# イノベ地域の農業副産物を利活用 するワークショップツアー

地域の価値向上に向けたブラッシュアップ事業

2025年 2月24日  
HANDS合同会社

# 目次

---

1. 会社概要
2. 取組概要と目的
3. 取組成果
4. 効果検証(アンケートの収集・分析結果等)
5. 今後に向けて

# 1. 会社概要

---

# 会社概要

会社名

HANDS合同会社

創業

2021年 3月 31日

所在地

福島県南相馬市小高区飯崎字南原101番地の8

代表社員

平岡 雅康

従業員数

4人(役員1名、アルバイト・業務委託3名)

資本金

30万円

業務内容

1. ものづくり(衣料品/腕時計/日用雑貨)の企画・デザイン業務
2. 福島県産品の販売業務(ローカルライフスタイルストアKIRAの運営)



## **2. 取組概要と目的**

---

## 2. 取組概要と目的

### 地域の価値向上に向けたブラッシュアップ事業の目的

福島イノベーション・コースト構想の実現に向け、浜通り地域等15市町村に交流・関係人口等の来訪者を外部から呼び込むとともに、イノベ構想の担い手となる人材を継続的に確保していくためには、自立的、持続的に外部の活力を呼び込む体制を地域内に構築することが必要である。そのため、本事業では、①イノベ地域で活動する企業・団体等と協働し、②イノベ地域外の企業・団体及び将来の機構の担い手として期待できる若者等を主要なターゲットとし、③イノベ地域に呼び込むコンテンツ開発を目的とする。

募集要項より

### 企画へ織り込んだこと

- ①・③ イノベ地域の農業事業者が持つ副産物(=地域の価値)に着目し、ワークショップによる利活用(=価値向上)を体験。
- ② 新たなチャレンジに興味ある若い世代を呼び込み、「エシカル」や「サステナブル」な可能性を発見してもらい、今後もイノベ地域に関わりを持つ若者を増やす。(関係構築)

**イノベ地域の「農業副産物」をテーマに、首都圏の若い世代と関わりをつくる**

## 2. 取組概要と目的（本事業の中長期的構想）

「農林水産業」をスコープに、3ヵ年で主要な取り組みを通じて、

「イノベ地域の価値向上」と「イノベ構想の担い手確保」に繋がる取り組みを実施する。

### 主要な取り組み

令和6年度

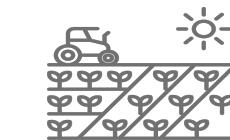
#### 浜通りの農業副産物利活用による 価値発掘プログラム



発見  
交流  
考える

本年度

#### 浜通りの農業副産物を活用した ワークショップ&ツアーによる体験プログラム



農業副産物のある事業者  
見学ツアー



震災遺構・  
復興に向けた新たな産業見学ツアー



農業副産物を活用した  
ワークショップ

発見  
体験・実践  
繋げる

令和8年度

#### 実証実験



本事業に意欲的な方を中心に実証実験を実施。持続的な関係性の構築を図る。

持続的な  
関係性の構  
築

## 2. 取組概要と目的（昨年度の取り組み）

令和6年度ブラッシュアップ事業にて「イノベ地域にある農業副産物を集積し、利活用による新たな価値向上を探るワークショップツアー」を実施。

### 現地見学ツアー訪問先

#### ・バナナ

トロピカルフルーツミュージアム(広野町) ⇨ 広野町産バナナの栽培現場の視察



#### ・蕎麦

幾世橋共同組合(浪江町) ⇨ 浪江町産蕎麦栽培の視察



#### ・ワイン

コヤギファーム(南相馬市) ⇨ 南相馬産ワイン用ぶどう栽培の現地視察



#### ・ブロッコリー

アグリサポートふたば(浪江町) ⇨ 浪江町産ブロッコリーの現地視察



#### ・キウイ

株式会社ReFruits(大熊町) ⇨ 大熊産キウイの栽培現場の視察



### 現地見学ツアー後に開催したワークショップで出た農業副産物の利活用アイデア

- ・バナナの葉や茎、ぶどうの絞りかす ⇨ ヴィーガンレザー
- ・ブロッコリーの茎・葉 ⇨ 化粧品、プロテイン、ソース
- ・キウイ、ぶどうのツル ⇨ 籠、バック、リース
- ・規格外のキウイ ⇨ 潰物(ピクルス・福神漬け)

## 2. 取組概要と目的（昨年度の取り組み）

令和6年度の実施内容、ならびに、参加者の方からの感想や意見を基に改善ポイントを導き出し、本年度の事業としてブラッシュアップ。

### 昨年度の参加者の方からの感想

日頃考えることのない産業廃棄物の利活用という切り口から関わり、農業課題を自分事として捉えられるようになった。

ワークショップのイベントだけでなく、こちらを楽しませようと、海やBBQなど様々な企画をしてくださったことで、さらに楽しむことができた。また参加したい。

### 昨年度の参加者の方からの意見

震災遺構（伝承館など）や被災地をもっと深く知ることができるコンテンツをもう少し増やしてもらえたなら良いなと思った。

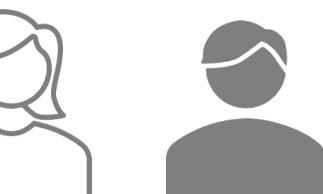
農業以外の分野として、ロボットなど先端産業や実際に被災地で活躍している産業についても見学できる機会も体験してみたい。

### 令和6年度の事業を基に導き出した改善ポイント

#### ①被災地域を知り、 復興事業を学べるツアー

#伝承館 #請戸小学校 #バイオマスレジン福島  
#フタバスーパー ゼロミル #Jヴィレッジ

イノベ地域の取り組みに  
関心がある。



潜在ターゲット

#### ②農業テーマを含む 人や地域との繋がりを感じる体験イベント

#トロピカルフルーツミュージアム  
#株式会社コヤギファーム #アグリサポートふたば

エシカルな社会やサステナブルに  
興味がある。

イノベ地域や新たな産業を知り、現地の方と交流も深めることで、

農業を通じた「イノベ地域の価値向上」と「イノベ構想の担い手確保」の可能性をもたらす。

## 2. 取組概要と目的（本年度）

### 浜通りの農業副産物を活用した ワークショップ&ツアーによる体験プログラムを実施

令和6年度の実施内容と感想を基に、、、

- ・被災地を知ることができる震災遺構への訪問や、復興に向けた新たな産業を巡るツアー内容を増やす。
- ・農業副産物を厳選し、農地見学＋副産物を使った試作ワークショップを実施する。

#### テーマ

「イノベ地域 × 農林水産業に関わる産業 ×  
復興に向けた新しい取り組み × サステナブル」

#### 実施内容

震災遺構／新たな産業／農地を巡るツアーと農業副産物を活用したワークショップを併せた1泊2日のワークショップ & ツアーを実施

対象 : 農林水産業に関わる産業や復興に向けた新しい取り組み、  
サステナブルなどの環境に配慮したものづくりに興味・関心のある首都圏の20～30代の学生・社会人

開催回数: 全3回(8名 × 3回=24名)

### **3. 取組成果**

---

### 3. 取組成果（実施内容）

---

震災遺構／新たな産業／農地を巡るツアーと農業副産物を活用したワークショップを併せた1泊2日のワークショップ＆ツアーを実施

#### 1日目：現地の実情を知る産業施設と農地の見学

復興に向けた新たな産業施設の見学先

・浪江町棚塩産業団地

（福島水素エネルギー研究フィールド：FH2R、福島高度集成材製造センター：FLAM、福島ロボットテストフィールド 滑走路・滑走路付属格納庫）

・株式会社バイオマスレジン福島 　・浅野撚糸株式会社フタバスーパーゼロミル

農業副産物のある事業者の見学先

・トロピカルフルーツミュージアム／広野町（9月） 　・株式会社コヤギファーム／南相馬市小高区（10月） 　・アグリサポートふたば／浪江町（11月）

宿泊先

・Jヴィレッジ（見学兼宿泊）

#### 2日目：震災遺構の見学とワークショップ

震災遺構

・東日本大震災・原子力災害伝承館 　・震災遺構 浪江町立請戸小学校

ワークショップ会場

・CREVAおおくま（9月／10月） 　・小高交流センター（11月）

### 3. 取組成果（募集と参加者）

参加者募集用チラシを作成し、「農業」や「ものづくり」に興味・関心のある首都圏に住む20代～30代の学生や社会人を対象として募集

#### ・募集用チラシ

##### 参加者へのご案内

##### 1泊2日のワークショップツアー

福島県浜通りの“農業副産物”を活用し体験する。

HANDS合同会社は、「農林水産業」をスコープに、「イノベ地域の価値向上」、「イノベ構想の扱い手確保」に繋がる取り組みとして、イノベの地域の農業副産物を活用したものづくりワークショップツアーを開催いたします。本ツアーでは、イノベ地域の関連事業者の農業副産物を活用し、モノをつくり形化し、地域ごとの農業副産物の利活用の可能性について考えるとともに、被災地域を巡り、東日本大震災について学び、現在の復興事業についての理解も深めます。



##### イノベ地域の農業副産物を活用した ものづくりワークショップツアー

9月13・14日 / 10月18・19日 / 11月15・16日

##### 体験できる3つのポイント

DAY1

##### ★ 移動(東京→浪江駅集合)

\*朝食は各自でお願いいたします。

##### ● 現地見学ツアー①(浪江 / 広野)

\*ツアー前に参加者全員で昼食をとります。

##### ● 復興拠点であるJヴィレッジ

にて、見学・交流会・宿泊



##### II 地域交流

現地で活躍するチャレンジャーや移住者と交流し、  
イノベ地域の魅力を知ることができる。

DAY2

##### ★ 現地見学ツアー②(双葉 / 浪江)

\*伝承館や請戸小学校などの震災遺構を見学します。

##### ● イノベ地域の農業副産物を 使ったワークショップ

##### ● 移動(大野→東京 / 大野駅解散)

\*行程は変更となる場合がございます。

\*上記行程は、9月開催回の行程です。



##### III 農業副産物を使ったワークショップ

それぞれの地域にある農業副産物を使って、モノをつくり、地域ごとの農業副産物の利活用の可能性について知ることができる。

##### ●ツアーアルゴリズム

日 程 1回目:9月13日(土)・14日(日) 2回目:10月18日(土)・19日(日) 3回目:11月15日(土)・16日(日)

\*1・2・3回目のいずれかにご参加いただきます。

定 員 各回8名

料 金 参加費無料（現地までの往復交通費、現地での宿泊費を除く費用は各自負担）

その他の イノベ地域の価値発掘ワークショップツアー・本事業に関するアンケートや、SNS発信にご協力ください。

福島イノベーション・コスト構想推進機構が主催するイノベ地域来訪者受入体制構築事業  
「地域の価値向上に向けたプラッシュアップ事業」にHANDS合同会社の事業が採択され、本取り組みを実施いたします。  
運営:HANDS合同会社 / 担当:平岡雅康 / 問合せ先:hiraoka@hands-llc.com

#### ・参加者

##### ツアー第1回目(9/13~14)

参加人数 8名

(大学生 4名、社会人 4名)

##### ツアー第2回目(10/18~19)

参加人数 8名

(大学生 5名、社会人 3名)

##### ツアー第3回目(11/15~16)

参加人数 8名

(大学生 5名、社会人 3名)

### 3. 取組成果

#### ツアー中の様子



### 3. 取組成果

各ツアーで1日目に農地を見学、2日目に農業副産物を使った試作ワークショップを開催。

#### ツアー第1回目(9月):トロピカルフルーツミュージアム(広野町)

バナナの葉を使用し、コースター、ランチョンマット、アクセサリートレー等を制作。

##### 参加者の感想

- ・葉の大きさと加工のしやすさは可能性を感じた。
- ・そのまま使うよりヴィーガンレザーの材料として興味がある。



#### ツアー第2回目(10月):株式会社コヤギファーム(南相馬市小高区)

ぶどうのツルを使用し、フォトフレームを制作。

##### 参加者の感想

- ・作業時間がもっとあればカゴやリースが作れた。
- ・繊維として和紙もつくれるのではないか、試してみたい。



#### ツアー第3回目(11月):アグリサポートふたば(浪江町)

ブロッコリーの葉を使用し、ジェノベーゼ風パスタソースを試作。

##### 参加者の感想

- ・繊維質が結構残り、えぐ味もあった。
- ・青汁として健康飲料に使えないか試したい。



### 3. 取組成果

福島民友、福島民報社に取材していただき、紙面およびネットニュースにて掲載していただきました。

# 農業の可能性に迫る

首都圏の大学生ら 南相馬などでツアー

## 副産物の利活用に理解

首都圏の大学生や社会人が農業副産物を通して浜通りを知る「農業副産物利活用ツアー」は18、19の両日、南相馬市などで開かれ、浜通りの農業の可能性に迫った。

9月に活動がスタート。ワイン用ブドウの栽培やワイン製造を手なった。初回は広野町などを訪れてバナナの葉を用いたコースターなどを訪ねた。次回は、三本松貴志代表がかける南相馬市小高区のコヤキファームを訪れた。

・原子力災害伝承館や浪江町の震災遺構「請戸小」などにも足を運んだ。

ツアーハードウの製作に取り組んだ。今回は、東京から来た8人がアドウのつるの利活用について考え

のづくりの企画などを「HANDS」が実施行う南相馬市小高区のしている。

三本松代表の話を聞き、浜通りの農業に理解を深める参加者

ブロッコリーの葉でパスタ

福島イノベーション・コースト構想推進機構は15、16の両日、浜通りで農業副産物をテーマにしたツアーを行った。南相馬市小高区の小高交流センターでは、参加者が普段は捨てられるブロッコリーの葉の活用を考えた。

機構は本年度、農業副産物の活用を図ろうと、バナナの葉やブドウのつるを使つたコースターやフォトフレーム作り体験を行ってきた。今回



は首都圏の大学生8人が参加。ブロッコリーの葉を細かくし、ニンニクなどを混ぜたパスタ作りに挑戦した=写真。綾部柊哉さん(法政大1年)は「葉特有のにおいはなく、甘みがある。シャキシャキ感が残っていておいしい」と笑顔だった。学生らは浪江町のブロッコリー農場や震災遺構「請戸小」なども訪れた。

▲2025年10月21日付 福島民報社

▲2025年11月1日付 福島民友

▲2025年11月29日付 福島民友

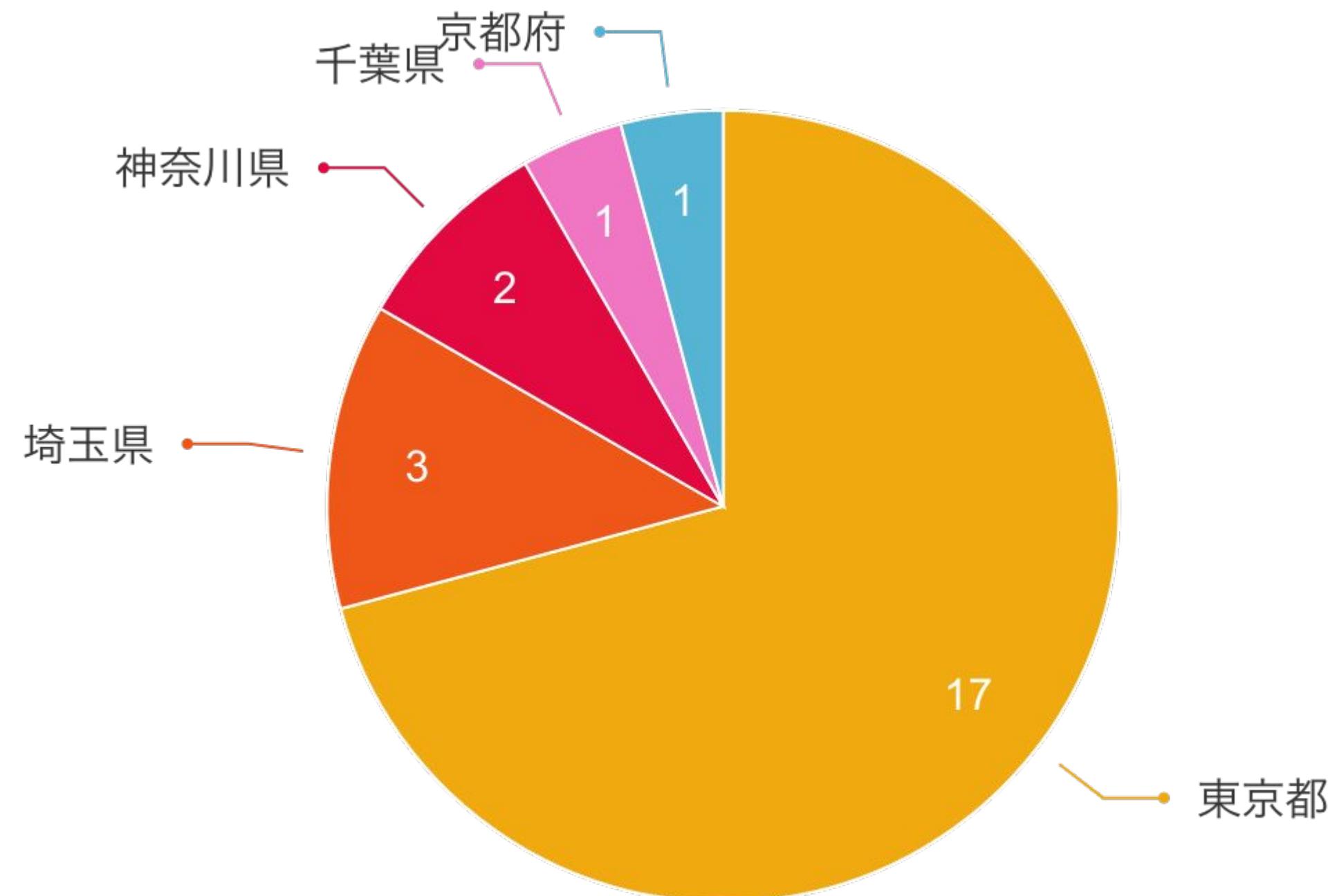
## 4. 効果検証

---

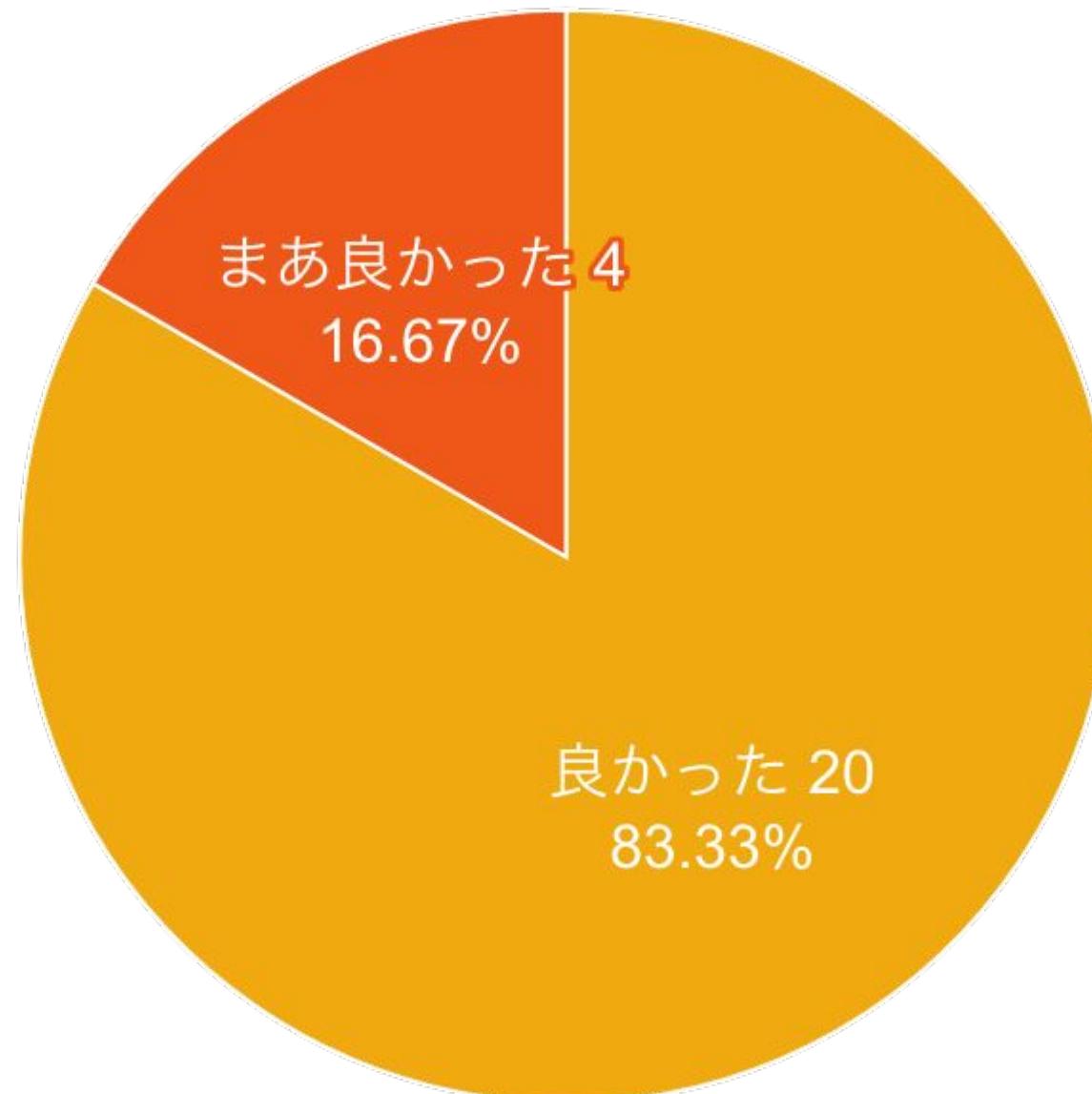
#### 4. 効果検証（ツアー直後 アンケートの収集）

ツアー終了後に実施したアンケートの回答内容

##### ・参加者の居住地



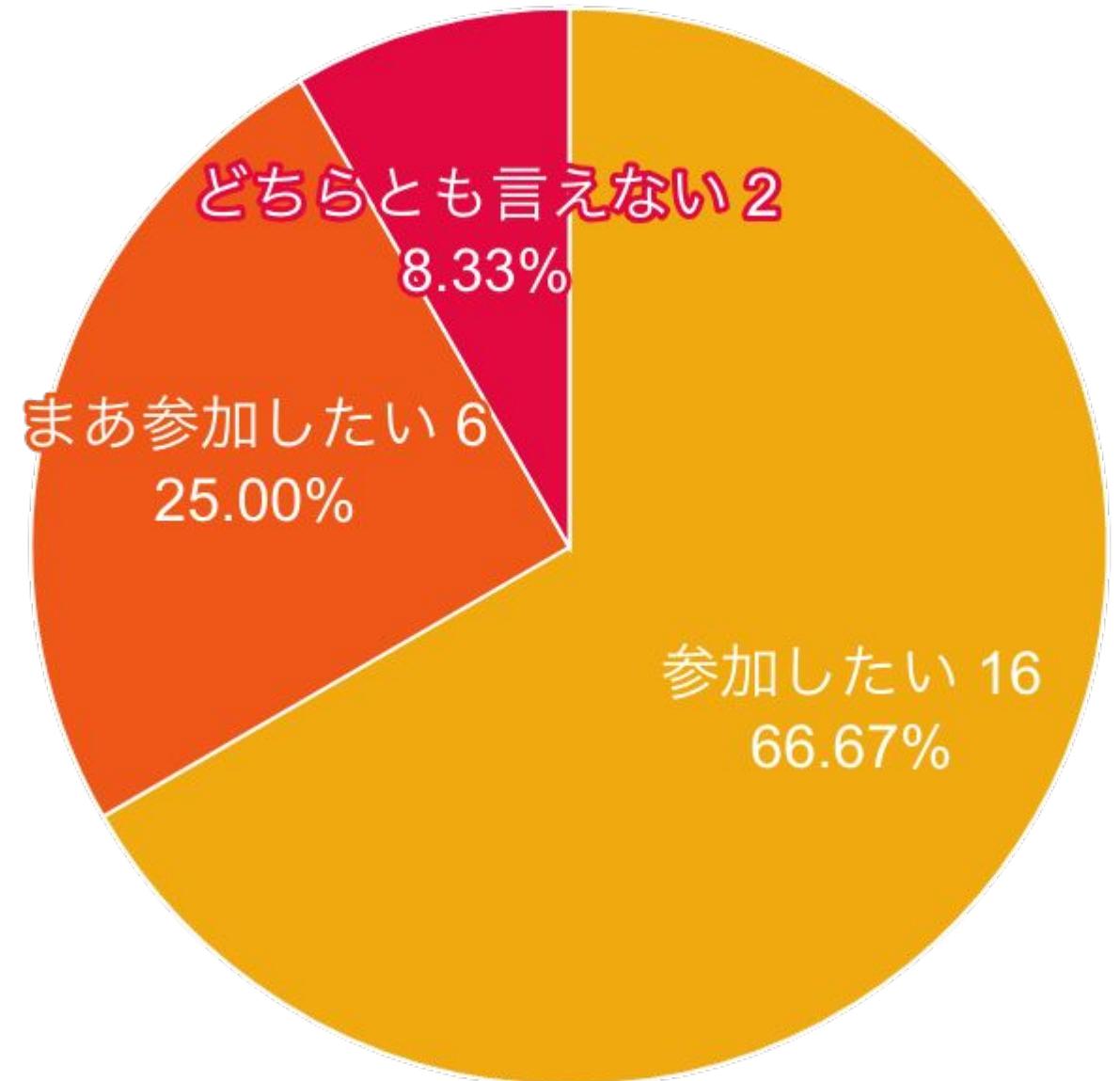
##### ・ツアー／ワークショップの満足度



## 4. 効果検証（ツアー直後 アンケートの収集）

ツアー終了後に実施したアンケートの回答内容

Q. 来年以降も同様のツアー等があれば参加したいか？

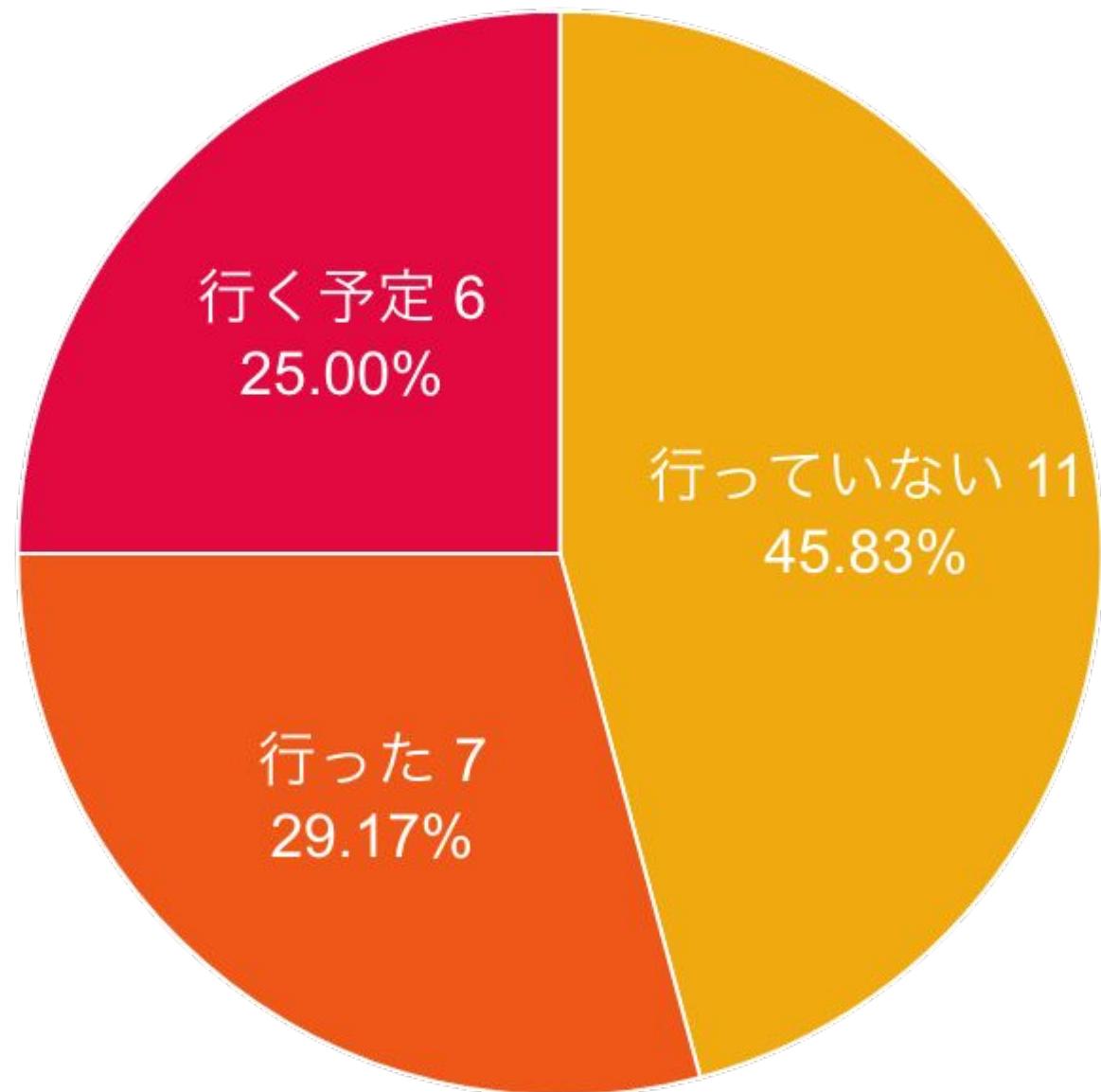


・主な理由

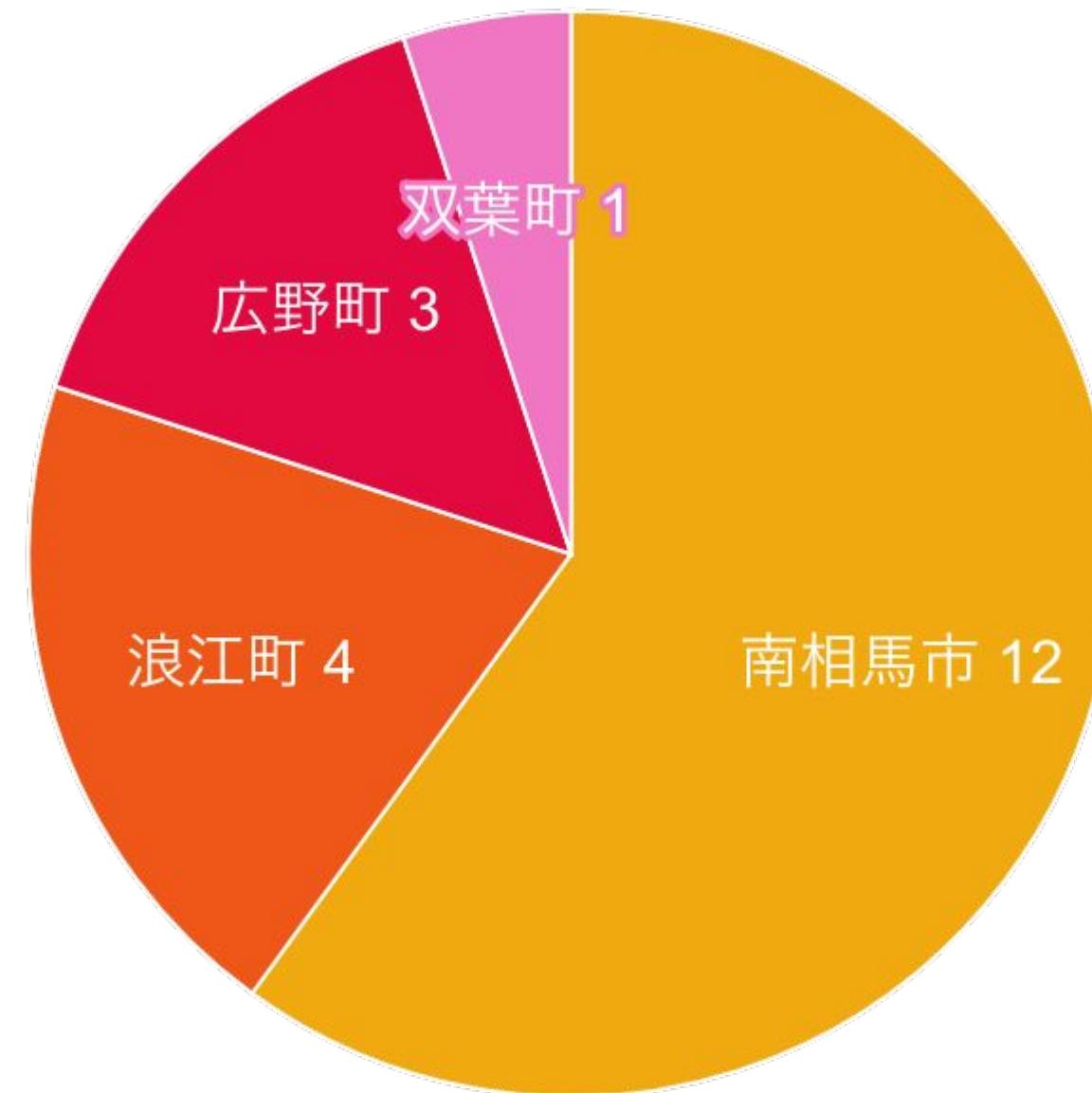
- ・農業副産物を利活用することに可能性を感じた。  
さらに追求してみたい。
- ・もっと多くの地域や事業等を見たい。  
移住した方々の話も聞いてみたい。
- ・移住者や起業する人が多い理由を理解できた。  
私も何か可能性をみつけたいと感じた。
- ・移住も検討しているため、また伺いたい。

#### 4. 効果検証（追跡アンケートの収集）

Q. ツアー参加後に、再度イノベ地域に行きましたか？  
または、これから行く予定はありますか？

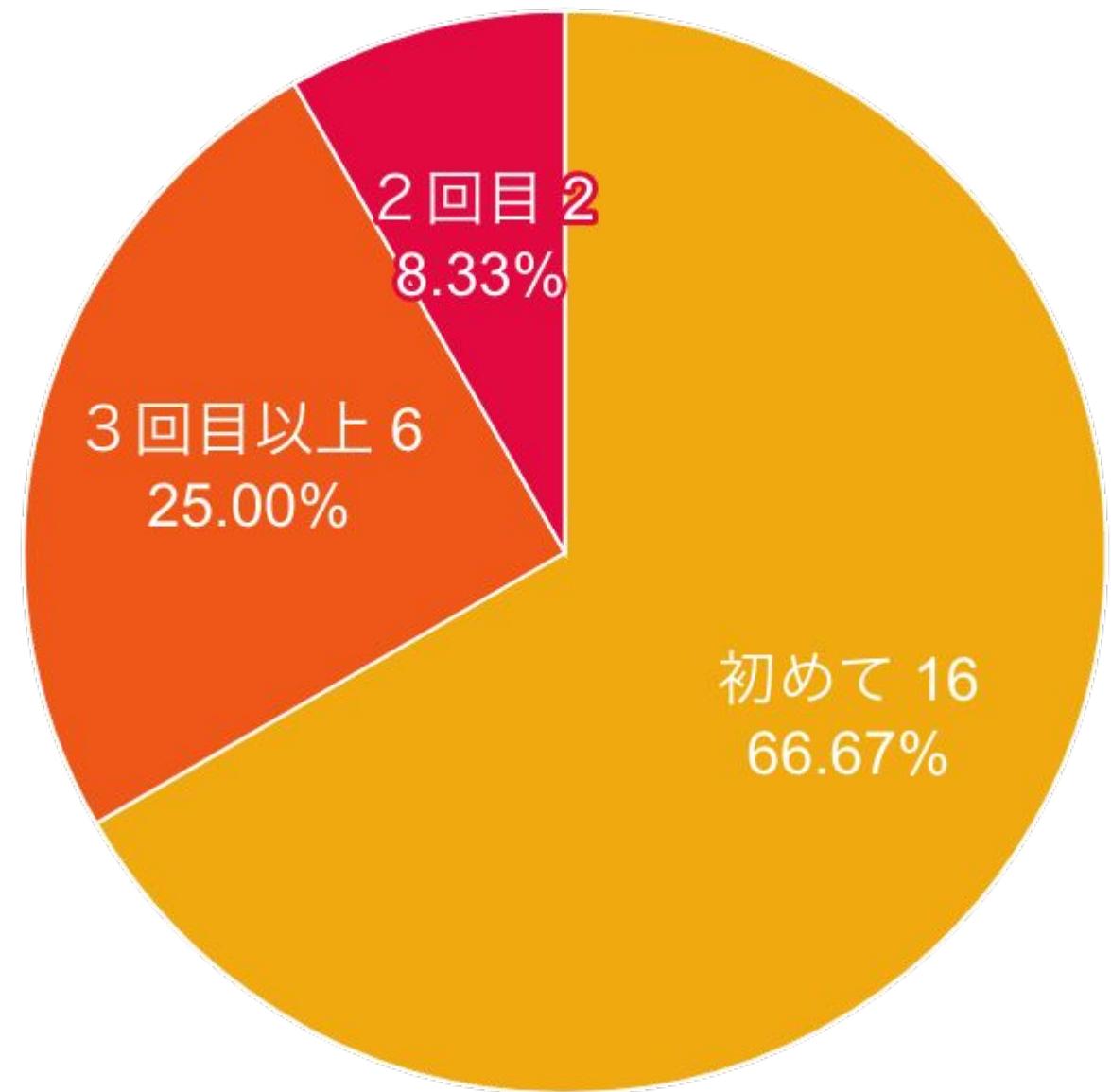


Q. 訪問した(訪問予定の)市町村は？

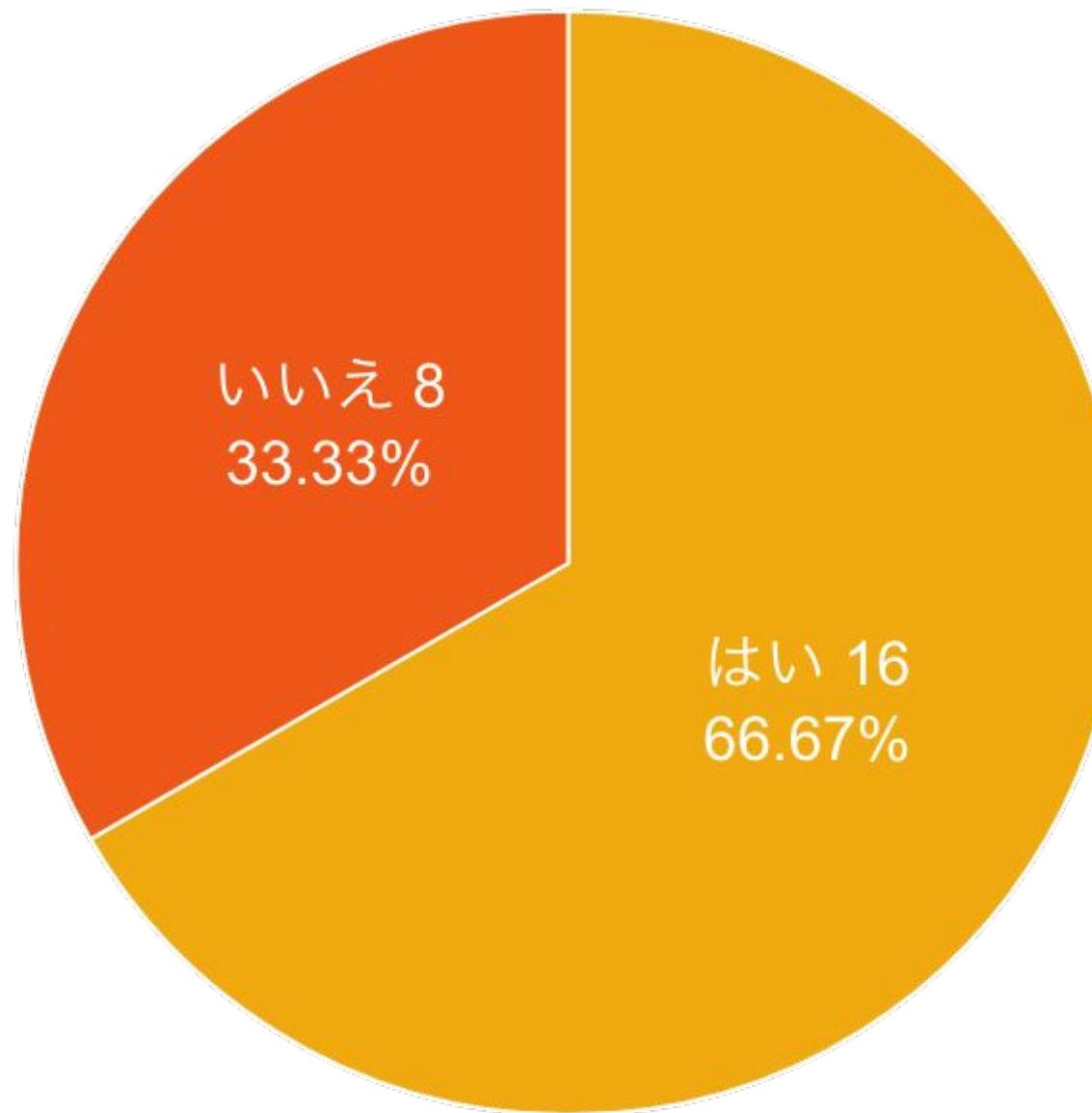


#### 4. 効果検証（追跡アンケートの収集）

ツアー参加時のイノベ地域訪問状況



Q. 今後もイノベ地域に関わりたいですか？



## 4. 効果検証（ツアー直後 アンケートの収集）

ツアー終了後に実施したアンケートの回答内容

参加者の満足度平均  
**4.8/5**

### ➤ 参加者の前向きな感想

バナナの葉を利活用した事業をつくりたい。

イノベ地域での起業に興味がある。仕事を通じて関わりを持ちたい。

移住を検討したい。



### ➤ ツアー参加者による追加の活動

#### 南相馬市原町区の「あきいち」に出店

ツアーに参加した大学生によって、バナナの葉を利用した子供向けの体験型ブースを出店。

使用したバナナの葉は、広野町のトロピカルフルーツミュージアムに直接依頼して調達。

今後は、事業化実現に向けての可能性を模索している。

ツアーケーをきっかけに  
参加者がイノベ地域の事業者と繋がり  
関係性の構築を実現！

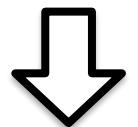
## 5. 今後に向けて

---

## 5. 今後に向けて（次年度以降の事業計画等）

2024年度

- ・イノベ地域の農業副産物利活用による価値発掘プログラム



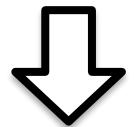
2025年度

- ・農業副産物を使ったワークショップツアーの実施

首都圏の大学生や20代の社会人をターゲットに、初年度のツアーで見つけた農業副産物のうち、対象をバナナ・ぶどう・ブロッコリーに絞り、それらの残渣を実際に使用し、利活用した試作品をつくるワークショップ＆浜通り農業体験ツアーを実施。

- ・ブドウのツルでフォトフレーム作り体験
- ・ブロッコリーの葉でパスタソースの試作体験

- ・バナナの葉でコースター作り体験



2026年度

- ・農業副産物をリサイクルした製品開発 & プロダクトの立ち上げ（収益化による自走を目指す）
- ・農業副産物の利活用による事業化実現の可能性を探るアイデアソンの実施

## 5. 今後に向けて（次年度以降の事業計画等）

### ・農業副産物をリサイクルした製品開発 & ブランドの立ち上げ **(収益化による自走を目指す)**

今回の参加者のうち、バナナの葉の利活用に興味を持った大学生と活動を継続し、事業化実現に向けて製品開発 & ブランドの立ち上げを目指し、起業も視野に入れた伴奏サポート。

福島イノベーション・コスト構想推進機構のスタートアップ支援プログラム「Fukushima Tech Create (FTC)」  
参加採択者のEUMIS合同会社との連携による、100%植物性・生分解性素材の開発を目指す。



写真: EUMIS合同会社より

### ・農業副産物の利活用による事業化実現の可能性を探るアイデアソンの実施

今回参加者の関心が高かった「バナナの葉」と「ブロッコリーの葉と茎」に対象を絞り、それらの利活用による事業化実現を目指したアイデアソンを実施し、「エシカル」や「起業」に関心のある若い人材とイノベ地域の農業との関係性構築を目指す。